

北大生が  
”英語脳”を身につけた全手法

# 成功を掴む 英語習得術

RE0

1分間に580語の英語を聞き取り  
TOEIC900点越えを可能にする。

独学でもここまでいけた。

大人になってからでも間に合う

ネイティブの英語を身につける方法



## ■ 著作権について

本書の利用に際しては、以下の条件を遵守してください。

本書に含まれる一切の内容に関する著作権は、本書作成者に帰属し、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。

著作権法上、認められた場合を除き、著作権者の許可なく、本書の全部又は一部を、複製、転載、販売、その他の二次利用行為を行うことを禁じます。

これに違反する行為を行った場合には、関係法令に基づき、民事、刑事を問わず法的責任を負うことがあります。

本書作成者は、本書の内容の正確性、安全性、有用性等について、一切の保証を与えるものではありません。また、本書に含まれる情報及び内容の利用によって、直接・間接的に生じた損害について一切の責任を負わないものとします。

本書の使用に当たっては、以上にご同意いただいた上、ご自身の責任のもとご活用いただきますようお願いいたします。

## はじめに

はじめまして、REO と申します。

このたびは『成功を掴む英語習得術』を

ダウンロードしていただきありがとうございます。



この電子書籍の中では、

私が独学で英語学習に 2000 時間以上励んできた経験を生かして

どのように日本人が最短最速で英語を習得でき、

ネイティブと対等にコミュニケーションを取ったり

洋画や海外ドラマを字幕なしで見れるようになるのか、

その方法を惜しみなく書いています。

- ・英語の力が思うように伸びない
- ・英語脳になって英語を理解してみたい
- ・将来、英語を仕事に役立てたり海外で生活してみたい

こういった思いを持っている人は参考になると思います。

ぜひ、本書を存分に活用してくださいね。

## なぜほとんどの日本人は英語ができないのか？

今や当たり前のように学校で英語教育を受け、

大学生や社会人も必死になって英語を学んでいますが、

本当に英語をマスターしているのは、ほんのごく少数です。

「なんで日本人は英語を習得するのに苦労するんだろうか？」

と考えてみたのですが、やっぱり一番に思うことは、

『ブレンディング』が理解できるかどうか。

これがほんとに大事です!

ブレンディングは学校では習わないし、

英会話スクールでも教えてもらえません。

そして海外で英語漬けの日々を送ったとしても、

意識しないと絶対に身につけません。

留学しても英語が話せるようにならないのはこのためです。

僕から言わせれば、『ブレンディング』をマスターすることこそ、

英語習得の最大の鍵なのですが、

なぜか日本では教えてもらえないんです。

そこらへんのことも本書の中でお伝えしていきます。

また英語学習者の永遠の課題、

「英語を英語のまま理解する」とはいったいどういうことなのか、

僕なりの答えを出したいとおもいます。

日本人が英語脳を手に入れて、

英語を英語のまま理解することは不可能ではありません。

だれでも努力次第でできるものです。

では、本書を通して

今後あなたがさらなる飛躍を遂げられることを

心より祈っております。



## ■ 目次

|  |    |
|--|----|
| ■ 著作権について .....  | 2  |
| はじめに.....  | 3  |
| なぜほとんどの日本人は英語ができないのか? .....                            | 4  |
| 英語を習得する 5 つの肝 .....                                    | 8  |
| ①英語を聞き取る「耳」をつくる .....                                  | 9  |
| ②五感をつかって英語を学ぶ.....                                     | 17 |
| ③英語はイメージ力が鍵となる .....                                   | 19 |
| ④インプット、アウトプットの考え方.....                                 | 24 |
| ⑤完璧主義こそが最大の敵だ.....                                     | 28 |
| ネイティブのイメージを感じる（形容詞） .....                              | 31 |
| 明るい.....   | 33 |
| ・ bright ・ brilliant ・ radiant ・ luminous ・ glittering |    |
| ・ sparkling ・ shiny/shining ・ glaring                  |    |
| 暗い.....  | 43 |
| ・ dull ・ dim ・ murky ・ gloomy                          |    |
| あとがき .....   | 48 |

## 英語を習得する5つの肝

それでは、さっそく内容に入っていきたいと思います。

成功を掴む英語習得術では、

僕が英語をマスターした過程をベースにして、

「これは絶対に外せない」と感じる5つの肝を紹介します。

もちろん僕もたくさんの遠回りをしてきたし、

それこそ、『ブレンディング』の重要性に気付くまでに

長い時間がかかってしまいました。

そういった反省もあるからこそ、

ここでは最高の英語習得術をお伝えできると思います。



具体的な学習法のテクニックなどについては

僕のメルマガ講座の方でもお話ししていきますので、

まずはこちらで、英語習得の基本をおさえてください。

## ①英語を聞き取る「耳」をつくる

---

言語の基本は耳から情報を吸収することです。

あなたが日本語を習得した過程を思い出してください。

いきなり文字を読んだでしょうか？

いきなり言葉を話したでしょうか？

そうではありませんね。

まずは、**耳から**言語を吸収しています。

周りの大人が喋って、それを聞いて、  
やがて言葉を話せるように成長していくんです。

そう考えると、英語を習得するためには  
リスニングを中心に鍛えるべきというのは、  
いたって自然の流れです。

リスニングが苦手だけど英語は話せる、という人に  
僕は今まで出会ったことがありません。  
聞こえない言語を話せるわけがありませんからね。

だから、英語を習得したいなら、  
「音声を聴きまくれ」「リスニング力を強化しろ」というのが、  
僕を含め、多くの英語をマスターした人たちの意見です。

そうなんです。そうなんですけど・・・

でも、リスニングって難しくないですか？

ネイティブの話す英語を聞き取れますか？

もし、ネイティブの英語を

難なく聞き取って理解できるという人は、

すでに十分な英語力があるので、僕の話聞く必要はありません。

今すぐ自らの英語学習に取り組んでください。

けど、そうではない人が多数だと思いますので、

その場合は、これからする話に全神経を集中してください。

日本人はリスニングを苦手としています。

その大きな原因が、

さっきから何回か登場している『ブレンディング』です。

ブレンディングというのは、簡単に言うと、

英単語同士がつながって、つながったことで音が変わることです。

たとえば、

何か物を頼まれたときに使う

「Not at all. (構わないよ)」という表現。

日本人がこれを普通に読むと

「ノット アット オール」のように読んでしまいます。

しかしそれこそが大きな間違い。

ネイティブは「ノット アット オール」なんて発音しません。

ではどのように発音するか？

ほとんどの場合、「ナラロー」です。

これがブレンディングです。

厳密に言うと、

リンキング（連結音）とブレンディング(混合音)という2つの言葉があるのですが、ここではわかりやすいように音がブレンドされている＝ブレンディングと呼びます。

これを理解しているかどうかで、

英語の習得速度は何倍も変わってきます。

だって、「ナラロー」と聞いて、

まさかそれが「Not at all.」だとは思わないですよね・・・。

「ナラロー？そんな単語あったっけ？」と悩むのです。

学校の英語では1語1語の英語を習ったのに

実際に使われる英語は「ブレンディング」の連続です。

次から次へと音が混ざり合って聞こえてくるものだから、

ブレンディングを知らない日本人が理解できるわけがありません。

まったく知らない未知の音が頭に流れ込むので、

それはもう**雑音と一緒になんです。**

英語を雑音として聞いてしまっている人が、

英語をペラペラに話せるなんてことは絶対にはいはずです。

だからこそ、ブレンディングを理解し、

英語を聞き取る「耳」を作り上げるようにしてください。

理想の状態は、

「ナラロー」→「Not at all.」と頭の中で分解をするんじゃなくて、

「ナラロー」→「ナラロー」でダイレクトに理解することです。

もはやナラローで1つの言葉だと思ってください。

なぜなら、ネイティブの英語を聞いたときに、

いちいち頭の中で分解しては到底追いつかないので・・・。

いくつかブレンディングの例を挙げておきます。



◆ブレンディングの例

make up [メイカッp]

when l [ウェナイ]

hang on [ヘンゴン]

in it [イニトツ]

give it [ギビツ]

meet you [チュー]

miss you [シュー]

send you [ジュー]

Can you [ニュー]

did you [ジュー]

not at all [ナラロー]

call it out [コーリラウ]

get it out [ゲリラウ]

what is [ワリズ]

get up [ゲラッ]

take care [テイケア]

some more [サモア]

hot tea [ハッティー]

went to [ウェントウ]

top player [トップレイヤ]

## ②五感をつかって英語を学ぶ

五感をつかって、

体全体で英語を身につけるように意識すると

英語の習得速度は2倍にも3倍にもなります。

「5教科」という言葉があるように、日本人は

国語、数学、理科、社会と同列で英語を考えています。

しかし、実際には

英語はこうした机の上で学ぶ科目というよりも、

体育や音楽のような「**実技科目**」だと思えるべきです。

目で見て、耳で聴いて、触れて、香りを感じて、味わって、

五感をフルにつかって脳みそを刺激する・・・

たとえば、英語のフレーズを暗記したいとき、  
ただ見るだけで暗記するよりも、  
フレーズを声に出して読んでみることで、  
視覚と聴覚を刺激し、より確実に記憶できます。

また、さらに記憶を強固にするためには、  
フレーズを紙に写してみることで、  
今度は視覚と聴覚に加え触覚を働かせることもできます。

場合によっては、  
味見してみたり、匂いを嗅いでみたり・・・なんてことができれば、  
さらに確固たる記憶として体に染みつきます。

まああくまで例えなので、

味覚や嗅覚を使う機会は少ないでしょうし、

いちいちすべてを紙に書くことが正しいとは言いませんが。

頭だけを使って英語を勉強するのではなく、

学習時間の半分は、机から離れて学ぶことが重要です。

### ③英語はイメージ力が鍵となる

---

『英語脳』って聞いたことあると思います。

簡単に言うと、

英語を英語のまま頭で理解し、

思ったことを英語で考え、英語で発言するなど、

日本語を介さなくても英語を自在に扱えるという

英語学習者の究極の理想ともいえる能力です。

僕も、この英語脳になるために何年間も勉強してきました。

色々な勉強法を試したり、

脳の働きについても多くの本を読んで学んできたのですが、

その過程でもっとも重要と感じたことがあります。

それが『イメージ力』。

英語のイメージを身につけることです。

英語脳の人とそうでない人の違いは、

英語を聞いたときに

それが文字として浮かぶか、映像として浮かぶか、

これが大きな違いといえます。

たとえば、

日本語で「怖い」という言葉を聞いたとき、

あなたは何を思い浮かべるでしょうか。

たぶん、幽霊とか、ホラーみたいな、

何かしらの「怖い」イメージ（映像）を思い浮かべると思います。

じゃあ仮に、英語で「scary」と聞いた場合はどうか？

英語があまり得意ではない人の場合、

まず浮かぶのは「scary」というスペル（文字情報）です。

そこから、「scary」→「怖い」という日本語に変換して、

ようやく scary の意味が浮かび上がります。

日本人は、受験のために文字中心の英語を学んできたため

イメージするという行為が極端に苦手で、

どうしても文字が先に浮かんでしまうのです。

本来なら、「scary」と聞けば、

「scary (怖い)」のイメージがぱっと浮かばければなりません。

「He is good at soccer.」と聞けば、

文字を思い浮かべるより先に

華麗にサッカーをしている姿を思い浮かべるのが英語脳です。

じゃあどうすれば英語をイメージできるようになるのか

英語脳を手に入れることができるのか



それは『単語』のイメージをつかむことです。

いきなり文章のイメージをつかめと言っても

そう簡単にできるものじゃありませんよね。

こういうときは細分化する必要があります。

英単語1つ1つのイメージ力が上がっていけば、

自ずと長い文章も英語のままイメージができるようになります。

いいですか？まずは単語からです。

英単語と言っても、実際に日常会話で

必要とされる数はそんなに多くはありませんよ。

基本の英単語のイメージ力を鍛えることで

英語の思考回路ができていきます。

## ④インプット、アウトプットの考え方

英語を習得するためには、

インプットとアウトプットのバランスを考ながら

毎日の学習に取り組む必要があります。

インプット = リーディング、リスニング

アウトプット = ライティング、スピーキング

4つの技能、それぞれが密接にかかわっています。



ここで考えてほしいのが、

インプットを絶対に甘くとらえてはいけないということ。

英語の読書量（リーディング）は

増やせば増やすほど、英語の基礎体力がつきます。

僕は大学受験のために

英語のリーディングをひたすら強化しましたが、

それは後の英語学習のベースとなっています。

そしてもう一つのインプット手段、

**音声を聞くこと（リスニング）はもっと大事。**

言語を習得するのは「耳」から、

というのは先ほど述べたとおりです。

要はなにが言いたいかというと

インプットをしないと英語は伸びないよということです。

英語を話せるようになりたいからといって

英会話教室に行き、話す練習だけ続けても、

上っ面のフレーズしか話せるようになりません。

英語に自信がない人ほど、

まずはインプットの比重を増やすように意識してください。

そしてアウトプット（話す・書く）について。

インプットも大事ですが、

アウトプットを同時に行うことでさらに効率よく学習できます。

それこそ五感を活用する意識をもって、

本を読んだら、身振り手振りを交えて音読しましょう。

小説なら情熱的に感情をこめて、

論文は聴衆の前でプレゼンするかのようによく読んでみるべきです。

また、音声を聞いたら、聞いて終わりじゃなくて

ネイティブスピーカーのまねをして喋ってみましょう。

発音やイントネーションをそっくりまねてみます。

それを iPhone などでも録音して、

自分の声を聞いてみるのも効果的です。

アウトプットをうまく取り入れていけば、

英語は掛け算のように伸びていきます。

もう一度まとめると、

インプット＝英語習得のベースとなる。特に耳を鍛えるべし。

アウトプット＝学習効率をさらに加速させるもの。

この考え方で、バランスをみてください。

## ⑤完璧主義こそが最大の敵だ

---

僕はこれまでに、

英語がぐんぐん伸びていく人

思ったように伸びていかない人

どちらのタイプも見てきました。

もちろんみなさん、

本気で英語を身につけたい！という高い志をもって

学習に励んできた人たちです。

じゃあどうして、

英語が伸びる人と伸びない人に分かれるのか、

この差はいったいなんだろう？と考えた時、

1つの答えが浮かび上がります。

それが『完璧主義』を捨てられるかどうかということ。

「間違っちゃいけない」

「完璧な英語を話さないといけない」

という完璧主義な考え方は損しか生みません。

英語にはたくさんの決まりごとがあります。



文法、時制、冠詞、単語、イディオム、  
ライティング、リスニング、リーディング…

すべてにこだわりすぎていると、  
なかなか前には進めないものです。

どれも大事だけど 100 点満点の答えを求める必要はありません。

ネイティブだって完璧な英語を話してるわけじゃないんです。

私たちも、知らない日本語、たくさんありますよね。

大事なのは実際に使える英語を身につけることです。

言語学者を目指すわけではないので、

「完璧」を捨てて、気楽に学んでいってください。

## ネイティブのイメージを感じる（形容詞）

ここでは、ネイティブが頭の中に思い描くような  
基本単語（形容詞）のイメージを紹介します。

英語を英語のまま理解する、

英語脳を形成するためには欠かせないプロセスです。

実はイメージで情報を処理するということは

『右脳』を働かせることでもあります。

右脳は、左脳に比べて、

「超高速処理」「大容量記憶」という可能性に満ち溢れた脳です。

この右脳を生かすことができれば、

英語を身につけるのはそう難しいことではありません。

では、以下の形容詞のイメージをつかんで

英語の思考回路をつくる土台としてください。

## 明るい

まずは「明るい」のカテゴリーに含まれる形容詞を紹介します。

それぞれネイティブがどういうイメージをもって

使い分けているのかを感じ取ってください。

「明るい」をあらわすもっとも一般的な単語は

『light』です。

This room is very light.

(この部屋とても明るいね)

では、ほかにどんな

「光」・「明るさ」があるのか見ていきましょう。

# bright

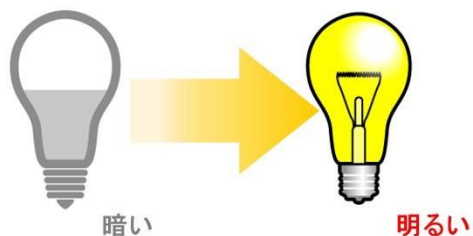
light の次にポピュラーな単語です。

光量の多さを表します。

テレビの明るさ調節ボタンなどがイメージしやすいかもしれません。

「積極的な明るさ」を表現する場面なら最も使いやすい表現です。

- Turn off the light, please. It's too bright.  
(その明かりを消してください。まぶしすぎます)



- It was a bright afternoon.  
(よく晴れた午後だった)



- She was wearing a bright red dress.  
(明るい赤のドレスを着ていた)



# brilliant

bright の強い明るさに加えて、

そこに目に飛び込んでくるような輝き・キラメキを思わせるイメージです。

- The sea was brilliant in the morning sun.  
(海が朝日を受けてきらきら輝いていた)



- She couldn't take her eyes off the brilliant diamond necklace.  
(光り輝くダイヤのネックレスから目が離せなかった)



# radiant

radiant は光線の放射です。オーラのような光の放出を感じさせます。必ずしも bright ほど強く差す光のイメージを伴うわけではなく、どちらかといえば周囲に光を発散するイメージが強いですね。

- We saw the radiant sunrise.  
(さんぜんと輝く日の出を目にした)



- You look radiant! Did you get some nice presents ?  
(嬉しそうだね！何か素敵なプレゼントでも貰ったの？)



どうでしょう。嬉しさが内側から放出されている感じがしませんか？(笑)



# luminous

光の放出を表しますが、radiant ほどの光の強さはありません。

周囲が明るくてはわからないような、暗い中でぽーっと光るイメージです。

- a sky luminous with stars  
(星が輝く空)



- a luminous watch  
(夜光時計)



# glittering

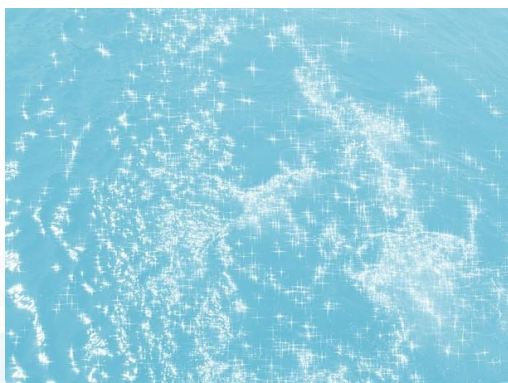
あちこちがキラッキラッと光るイメージ。

光点が点在しています。

- ・ shop window full of glittering Christmas trees  
(華やかなクリスマスツリーでいっぱいのショーウィンドウ)



- ・ He watched the glittering light on the water.  
(光る水面を見ていた)



# sparkling

あちこちがキラキラと光っています。

glittering と似ていますがギラッギラッとした重い質感はありません。

小さな無数の光があちこちに動いてはじける、  
軽さ・生き生き感のある光が sparkling です。

- the sparkling of a sword  
(刀のひかり)



- sparkling firework set  
(線香花火セット)



# shiny/shining

自ら光を出しているのではなく、

光を反射させてテカテカと光っています。

ピカピカに磨き上げた車が光っている、

そんな感触をイメージしましょう。

- Look at my shiny new coins.  
(新しいピカピカのコイン)

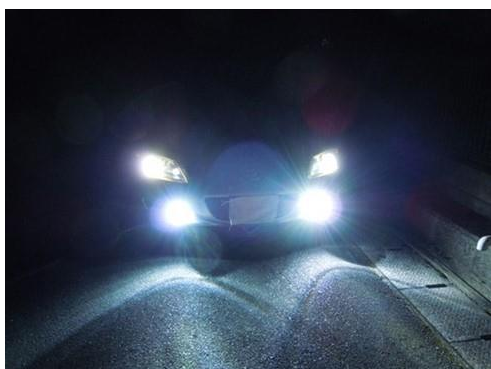


# glaring

目を刺すような強く、不快な光です。

痛さが伴うような感触があります。

- I was blinded by the glaring headlights of the car coming towards me.  
(対向車のまぶしい光で目がくらんだ)



- He stands with glaring eyes.  
(目を光らして立っている)



## 暗い

続いては「暗い」のカテゴリーに含まれる形容詞です。

「暗い」一般的な単語は、

light の対極である『dark』ですね。

It was dark outside and I couldn't see much.

(外は暗かったので、よく見えなかった)

では、「暗い」にはどのような単語があるのか、

ネイティブが感じるような質感に注目してみてください。

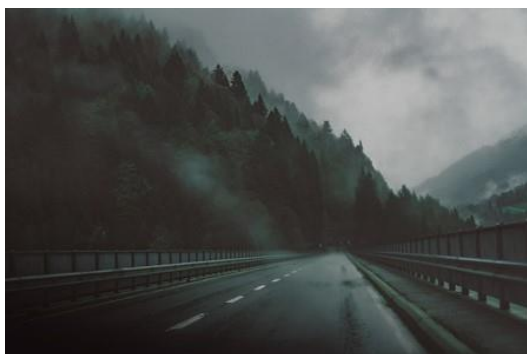
# dull

bright の対極にあるのがこの単語です。

明るさを投げかけるものが何もなく、

イメージとしては「欠乏感」が感じられます。

- It was a dull and gloomy day yesterday.  
(昨日はどんよりして、気分のめいる一日だった)





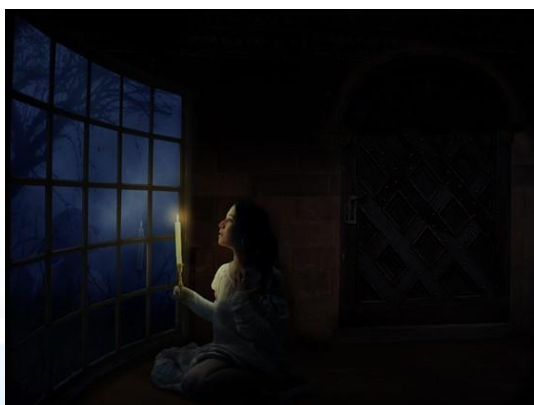
# dim

dim は「ほの暗い」および「ぼんやりしている」という薄暗さがあります。輪郭がかすんでよく見えないといった意味合いもあります。日本語の「たそがれ」に近いニュアンスを感じるかもしれませんね。

- He read the letter by the dim light of a candle.  
(彼はろうそくの薄明かりのなかで手紙を読んだ)



- I could barely make her out in the dim light.  
(薄暗い明りの中でやっとわかった)





# murky

murky は、淀んだ重苦しい暗さです。

ほこりや汚染に関わってくることも多いですよ。

- a murky dungeon  
(暗い地下牢)



- Columns of murky smoke overspread the sky.  
(黒煙もうもうとして天をおおった)

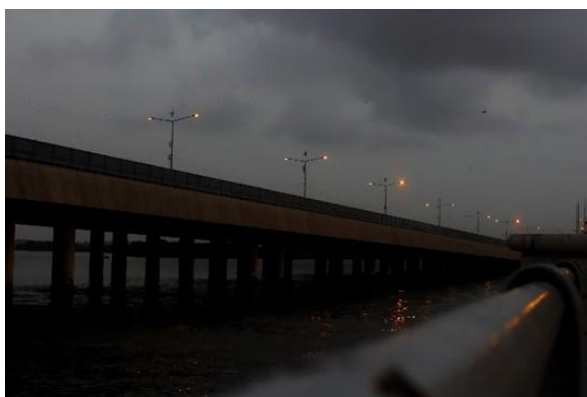


# gloomy

gloomy の暗さには、のしかかるような重苦しさがありません。

まるで生気のない、陰気で気が滅入ってそうなイメージです。

- a gloomy winter day  
(どんよりした冬の日)



どんよりとした、暗～い冬の一日は、

なんだか気が滅入ってしまいますよね。

## あとがき

おつかれさまでした。以上で成功を掴む英語習得術は終わりになります。

もう少し僕の話にお付き合いください。

今回お話したノウハウには、

すべてにちゃんとした意味があります。

僕が思うに、日本人にとって『英語』は

近いようで遠い存在だと思うんです。

巷にはたくさんの英語学習の書籍があって

ネット上にもゴロゴロと情報が転がっていて・・・

あれもこれもと手を付けているうちに、

本当に大事なことから遠ざかってしまいます。

だからこそ、本書のなかで

英語を習得するための5つの肝をお話ししました。

僕がお伝えしたかったのは、

けっしてブレない英語学習の『基本』です。

そして何よりも **ここが一番重要な場所**です。

英語は小手先のノウハウだけ学んでも習得することはできないし、

しっかりと幹となる考え方を学ぶことで効果が表れてくるので。

だからこそ、この書籍は2周するくらいの勢いで

読んでもらいたいと思っています。

何事も基本が重要となるのです。

それと、英単語のなかで、

もっとも感覚の彩り豊かなものが『形容詞』です。

ですから、あえて形容詞のイメージを紹介することで

ネイティブがどのような手触りで英語を使っているのか、

それを理解することがいかに重要なことか、

あなたに感じてもらいたかったのです。

英語をまるまる日本語に置き換えるような覚え方では、

絶対に英語は身につかないというのがわかっていただけたかと。

もちろん形容詞だけじゃなくて、

動詞、助動詞、名詞、前置詞、文法、

あらゆる英語のイメージを掴むことが大事ですよ。

とはいっても、それらをすべて説明するとなると

あまりにも膨大な量になってしまうので・・

本書ではまさに基本の部分を

ギュッと凝縮して詰め込みました。

そして今後、より**具体的な英語習得のノウハウ**を

お送りするフォローアップメール講座をしていくつもりです。

明日から、あなたが確実に英語を身に付けられるように、

**最高のカリキュラム**でフォローアップメール講座をお送りしていきます。

それでは、今後ともよろしくお願ひします。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

成功を掴む英語習得術

製作者 REO

P.S.

これから、この電子書籍を受け取ってもらえた方だけに

英語学習のポイントを盛り込んだ

フォローアップメール通信を送っていきます。

このプレゼントに載せることができなかった、

より具体的な学習テクニックをお伝えしていきます。

最終的には、**あなたの脳を”英語脳”へとグレードアップすることを**

目標としているので、ぜひ毎日届くメールを楽しみにしてください。

メールは、朝の 9:00 にお送りします。

少し早いですが、朝のスタートと同時に

僕のメール講座を読んでいただければ嬉しいです。

メールの中で、**シークレットプレゼント**や

**特別な企画**なども用意しているので、

ぜひ毎日届くメールを読み進めていってください！

ここだけの話ですが、メールを開いているのと開いていないので、

届くメールの内容が変わったりします・・・汗

毎日お送りしますので、見逃さないようにしてくださいね。



## P.P.S.

もしこの電子書籍を読んで、僕(REO)に聞きたいことや、  
英語学習のことで質問がありましたら、下記のメールアドレスに  
気軽にメッセージを送ってください。

⇒ [reoeng01@gmail.com](mailto:reoeng01@gmail.com)

忙しくて返事ができないときもありますが、  
いただいたメールには必ず目を通しています。

では、これから頑張っていきましょう！！

運営メディア：

ブログ：<http://dokugaku-english.com>

Twitter：[http://twitter.com/reo\\_1066](http://twitter.com/reo_1066)

